

美里町立小中学校の耐震診断結果

平成24年4月現在

学校名	施設区分	構造	階数	面積 (㎡)	竣工年度	診断状況	診断年度	Is値	補強後のIs値	進捗状況
松久小学校	校舎	鉄筋 (R)	3	2,441	S47	2次診断	H20	0.48	0.75	H23 耐震補強工事完了
	体育館	鉄筋+鉄骨 (RS)	2	795	S51	2次診断	H20	0.26	0.74	H22 耐震補強工事完了
東児玉小学校	北棟	鉄筋 (R)	3	1,614	S52	2次診断	H8	0.63	0.74	H10 耐震補強工事完了
	南棟	鉄筋 (R)	2	1,442	S54	2次診断	H8	0.98	0.98	2次診断の結果、耐震性有りのため補強必要なし
	体育館	鉄筋+鉄骨 (RS)	1	912	S49	2次診断	H8	0.29	1.36	H18 耐震補強工事完了
大沢小学校	校舎	鉄筋 (R)	3	2,459	S57					新 耐震基準 (S56.6以降建築物)
	体育館	鉄筋+鉄骨 (RS)	1	594	S47	2次診断	H20	0.35	1.20	H23 耐震補強工事完了
美里中学校	管理教室棟	鉄筋 (R)	3	5,401	H22					新 耐震基準 (S56.6以降建築物) H23 旧校舎 取り壊し完了
	普通教室棟	鉄筋 (R)	3	937	H2					新 耐震基準 (S56.6以降建築物)
	技術棟	鉄骨 (S)	1	278	H2					新 耐震基準 (S56.6以降建築物)
	体育館	鉄筋+鉄骨 (RS)	2	1,707	S44	2次診断	H20	0.17	0.72	H22 耐震補強工事完了

平成24年4月現在 小中学校施設耐震化率100%達成

○構造区分

R：鉄筋コンクリート造

S：鉄骨造

RS：1階部鉄筋コンクリート・2階部鉄骨造（屋根部分）

※RSについては、体育館によく見られる構造です。

○耐震化が必要な建物

昭和56年以前の耐震基準（昭和56年6月 建築基準法・施行令改正）で設計された建物が対象になります。

○各診断の説明

◆1次診断

柱や壁の量から簡略的に評価する診断法です。建物の粘り強さを考慮していないので、2次診断を実施した場合、結果のI_s値が変わることが多くあります。

◆2次診断

コンクリートや鉄筋量といった柱と壁の強度と建物の粘り強さを考慮して、耐震性能を算出する診断法です。1次診断より精密な判定法になり、学校施設を耐震補強する場合に一般的な診断になります。

○構造耐震指標（I_s値）の目安（平成18年1月25日 国土交通省告示第184号）

◆0.3未満 地震に対して倒壊または崩壊する危険性が高い。

◆0.3以上0.6未満 地震に対して倒壊または崩壊する危険性がある。

◆0.6以上 地震に対して倒壊または崩壊する危険性が低い。

※震度6強から震度7程度の地震を想定しています。

※文部科学省では、公立学校施設の耐震改修の補助要件として、地震時の児童生徒の安全性、被災直後の避難場所としての機能性を考慮し、補強後のI_s値が概ね0.7を超えることとしています。

○構造耐震指標（I_s値）は、各階ごと等に算出されるものであり、公表されている数値は建物全体での最低値となります。